



よしぶえ

○編集

淀川河川公園広報委員会

○事務局

〒570-0096 守口市外島町4-18

☎06-994-0006

(財)河川環境管理財団

淀川の自然・歴史・文化・改修事業の実際が見える

枚方地区「淀川資料館」 4/29 祝 リニューアルオープン。

淀川資料館は、近畿地方建設局淀川工事事務所に隣接した位置にあり(府道京都守口線沿い)、また、昨年オープンした淀川河川公園枚方地区も近く、淀川の貴重な歴史資料が保存展示されている、外観は小ミュージアム的なデザインの瀟洒な建物です。同館は、第2次大戦の戦火から守り保存されていた明治の初めからの淀川に関する貴重な資料(地図や書類)を、一般の人々にも公開するため、昭和52年4月に設立されました。昨年(平成9年)は同館オープンからちょうど20年目。

また、明治30年(1897)に着工した淀川改修100年目を記念して建てられたもので、昨年12月にリニューアル着工、このたび装いも新たにオープンしました。来館者は、地元の市民をはじめ大阪府全域からの様々な団体個人で、オープン後すでに約900人が訪れ(5月現在リニューアル以前に比べて月間4倍強)、淀川河川公園枚方地区とあわせ人気施設のひとつになっています。



淀川資料館

映像や貴重な淀川コレクションで 歴史を実感

資料館の中は、大きく3つのブロックで構成されています。入り口正面は、江戸時代の画家・安藤広重が描いた「三十船とくわんか船」の大きな版画カラーパネルがあり、また、煙りを吐く明治の外輪船の写真などの解説で、当時の淀川の庶民文化が紹介されています。右手は、我が国の近代的治水計画の創始者、オランダのデ・レーケ直筆の淀川の地図や古文書と翻訳本、オランダ技師の契約金額リストなど貴重資料の「淀川コレクション」、6人の歴史人物から見た淀川を映像紹介する「人物紹介辞典」、絵で見る「淀川グラフィック年表」など、淀川の歴史を実感できる当館のメインコーナーです。また、左奥は淀川に生息する動植物分布や河道変遷の歴史を紹介する「淀川環境データベース」、「淀川立体マップ」のコーナーになっています。

淀川とくらしのコーナー

歴史コーナー入口の淀川の航空写真を使った通路

淀川
の環境
コーナ
ー

淀川資料館

- 開館時間 9:00~16:00 (入館は16:00まで)
- 休館日 毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始(臨時休館日があります)
- 入館料 無料
- 団体ガイド 団体見学の場合は、事前にお申し込みいただきますと、係員がご案内します。
- 交通 京阪枚方市駅より徒歩7分。京阪枚方公園駅より徒歩15分。阪急高槻市駅、JR高槻駅より京阪バス枚方市行「枚方公園」下車徒歩10分
お願い→当資料館には駐車場がありません。
ご来館には電車・バスをご利用下さい。
- お問合せ 〒573-1191 枚方市新町2-2-13
TEL 0720-46-7131

7月 は河川 愛護 月間 です

月間の主な行事のご案内

- 7月11日(日)
淀川の魚と観察用水槽の贈呈(大阪府立淡水魚試験場)
- 7月19日(日) 小雨決行
淀川“わんど”クリーン大作戦(城北わんど)
- 7月23日(木)
水生生物調査(宇治橋・羽束師橋・枚方大橋・西大橋)
- 7月23日(月) 雨天中止
淀川クリーンキャンペーン(豊里わんど他)



春季野球大会

西日本代表「中央シャインズ」日本一に!!

恒例の春季野球大会が3月～5月、海老江地区ほか6地区の野球場で行われ、5月17日(日)、佐太西地区で準決勝・決勝の熱戦3試合が繰り広げられました。第20回の今大会は、参加256チーム約5,000名の選手という大規模なもの。雨で順延にもめげず激戦を勝ち抜き、優勝トロフィーを獲得したのは「中央シャインズ」。惜しくも2位になった「九星ロイヤルズ」、3位の「相互信用金庫」「ペーブルスクラブ」チームのナインも、試合後の表彰式で互いの健闘をたたえ合いました。なお、6月14日(日)には東京ドームで、午前8時30分から、中央シャインズ(西日本代表)とブレーブス(東日本代表)の日本一を決める東西決戦が行われ、「中央シャインズ」が、延長サンドデスで2対1の劇的なサヨナラ勝ち。2年ぶり2度目の決勝進出で、見事全国制覇の栄誉を勝ち取りました。

桜まつり・大賑わい

満開の背割堤地区

天候不順が続く4月初旬、4～5日(土・日)の背割堤地区は好天に恵まれ、桜まつりにふさわしく1.4kmの堤は、少し早めの開花でほぼ満開。たくさんのお花見客で、終日賑わいました。木津川をはさんでヨシの群落越しに見る対岸には、菜の花の黄色が印象的で、この地区ならではの春の情景が展開していました。



桜満開の背割堤地区



春季野球大会で優勝した「中央シャインズ」のメンバーたち

熱戦ゲートボール大会

守口市の「大藤A」が優勝

5月22日(金)、仁和寺野草地区ゲートボール場で、参加24チーム×6人編成のリンク戦によるゲートボール大会が開催されました。同会場は、目に優しい天然芝のコートが評判で、球の転がりがよく、イレギュラーしないことで好スコアが狙え、当日も好プレイが続出する熱戦が繰り広げられました。なお、同地区では11月にも大会が予定されています。今大会の成績は次の通り。

★優勝	 大藤A(守口市)
★準優勝	 福友会(寝屋川市)
★3位	 一二三会(枚方市)
★3位	 山田池(枚方市)



開会式に集まった選手たち

【7月1日(水)～31日】

- 河川愛護月間 淀川クリーンキャンペーン(淀川全線)

【7月19日(日)】

- 「LOVE遊-淀川」淀川「わんど」クリーン大作戦(城北わんど地区)

【8月30日(日)】

- 淀川の自然を楽しむ会(十三野草地区)

【9月～10月】

- 秋季野球大会(海老江地区 外6地区)

【9月中旬】

- 淀川河川公園杯男子テニス大会(赤川地区)

【9月20日(日)】

- '98全日本市民駅伝サーキット(枚方地区)

淀川河川公園 守口スポーツプラザ

	大人(中学生以上)	小人
平日	1,500円	1,100円
日・祝日・8/12～16	1,700円	1,300円
ナイター(午後5時以降)	800円	600円

ご利用期間 平成10年7月4日(土)～平成10年8月31日(月)

◎休業日 7/9(木)・7/16(木)

ご利用時間 平日…正午～午後7時
日曜・7/20～8/31…午前10時～午後7時

サロスポーツプラザ

守口市外島町2-41 TEL06-993-2825

- 京阪電車「守口市駅」から徒歩15分/地下鉄谷町線「守口駅」・京阪バス「地下鉄守口」バス停から徒歩7分。

陸上トラック編

淀川河川公園の陸上トラック施設は、専用陸上トラック4面、サッカー・ラグビー場兼用3面の合計7面があり、地域の陸上競技ファンが、四季を通して、短・中・長距離走のためのトレーニングや調整に利用しています。また、最近では、市民マラソン大会など、様々なスポーツイベントも各地で催されており、そのためのトレーニングにトラック施設を利用する人たちが増えています。淀川河川公園のスポーツ施設の使用申し込み・問い合わせは、下記の各サービスセンターまで。

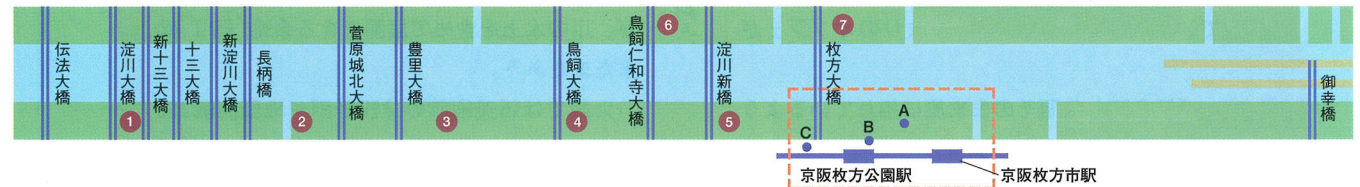
地区名	面数	兼用	交通
①海老江地区	1面	兼用	阪神電車「野田駅」から徒歩10分、または、大阪市バス・阪神バス「上海老江」から徒歩7分
②毛馬地区	1面	兼用	大阪市バス「毛馬町2丁目」から徒歩10分(守口車庫行)
③外島地区	1面	専用	京阪電車守口市駅下車徒歩15分、地下鉄(谷町線)守口駅下車、または京阪バス地下鉄守口下車徒歩7分。
④大日地区	1面	専用	京阪電車寝屋川市駅より京阪バス(点野経由守口市駅行)または京阪電車守口市駅より京阪バス(八幡、点野団地経由寝屋川市駅行)で佐太小下車徒歩5分。
⑤太間地区	1面	専用	京阪電車寝屋川市駅より京阪バス(太間公園行)で太間公園下車徒歩5分。
⑥鳥飼上地区	1面	兼用	JR「千里丘」駅・「吹田」からバス「中鳥飼」下車、徒歩10分
⑦大塚地区	1面	専用	京阪電車「枚方市」駅または阪急電車「高槻市」駅から京阪バス「枚方大橋北詰」下車徒歩7分

■お問い合わせ・申込みは

*受付時間/9:00～12:00 13:00～16:30

*休日/毎週月曜日および年末年始(12/29～1/4)

①～④の地区	守口サービスセンター	〒570-0096 守口市外島町4-18 TEL06-993-0684
⑤の地区	太間サービスセンター	〒572-0078 寝屋川市太間町7-31 TEL0720-38-0888
⑥⑦の地区	鳥飼サービスセンター	〒566-0071 摂津市鳥飼下1-8-1 TEL0726-54-9800



淀川歴史散歩 第4回

三十石船と枚方歴史街道に沿って

■三十石船とくらわんか舟 図一A

淀川の三十石船の起りには、豊臣秀吉の小田原征伐(天正18年・1590)が終わった時、武器などの荷物の海上輸送を請け負ったものと伝えられ、その後、公航権をもっていた三十石の淀船と同じ公用につき、「過書船」と呼ばれていました。海からの大船の淀川筋進出は、小回りの効く淀船と長い間積み荷の争奪戦を繰り返したといえます。旅客専用の過書船「早登り三十石船」は、朝と晩の一日二回伏見と大坂の八軒屋の間を往復しました。寛永12年(1635)頃から、この乗客に「飯くらはんかい、酒のまんかい、さあさあみな起きくされ」と柄悪く漕ぎ寄った小舟が淀川名物の「くらわんか舟」。彼らは大坂夏の陣で家康を助けた功績で、茶舟の独占営業権と無作法かまいたしのお墨付きをもらった高槻のお百姓だったそうです。

京街道にある
当時をしるはせる
鍵屋のブレン



■鍵屋浦と郵便屋の渡し 図一B

京阪電車枚方公園駅と淀川の間、古い家並みの静かな雰囲気が漂う歴史街道が続く。現在の堤町。ここに寛永年間から続いている船宿「鍵屋」があります。近辺は淀川の水運が盛んだった近世、枚方浜という船着き場で、乗降客も多く鍵屋の裏は停泊する船で賑わいました。本館にはかつては淀川に通じた水路があり、三十石船から小舟に乗り換えた客が、直接鍵屋に入れたそうです。今も家の中にその船着き場が残っています。歴史街道が終わる淀川を望む堤防の小さな角地に、「郵便屋の渡し」の石碑があります。明治10年に対岸の高槻に東海道線が開通すると、左岸一帯の郵便物をここの渡しで高槻駅まで運びました。石碑には「郵便屋さん走りんかもうかれこれ十二時や」と土地の言葉が刻まれています。



■淀川洪水碑と合同樋門跡 図一C

初夏の川風が匂う淀川の左岸、枚方大橋南詰めのバイパス下の草地に、可憐な花を咲かせた野草に囲まれた「明治十八年洪水碑」がひっそりと立っています。そのすぐ近くの桜町には、かつて農業用水路として造られ、今は「水面回廊」と名付けられた一風変わった川底を生かした細長い公園が家々の間に伸びています。昭和初期に造られ、昭和40年頃まで淀川から取水、出口雨水幹線として北河内一帯の、約500ヘクタールの田畑を潤していた長さ約2.8kmの水路跡です。同公園の端の親水広場には、この地にあった8つの樋管を統合し北河内を洪水から守っていた合同樋門の写真プレートが設置された石のモニュメントがせせらぎのそばにあり、初夏の日差しの中に涼しげな姿を見せています。 記：滝本 明



▲枚方大橋南西詰めに
明治18年洪水碑

淀川・河川公園と私

ナンバー

四

今井祝雄

いまいのりお。造形作家・成安造形大学助教授。琵琶湖のヘドロを素材にミニチュメントをつくった。

一九四六年大阪市生まれ。新大阪駅前の彫刻や住吉大社の万葉歌碑など公共空間の造形を制作。近作では大津市に

ジョギング、釣り、球技に興じる人たち…。私もまた、川風が吹き抜ける川べりを歩くことが好きである。

3年前、「私の川ものがたり」というラジオ番組のインタビュー取材で、淀川の河川敷を車で疾走したことがある。ヒトが散策するエリアから外れた沿道だったが、延々と続く河畔の空間の広さと長さに、ひととき都市の河川であることを忘れていた。

そんななかでは猫のひたいほどというべき小さなポケットパークがあって、そこに私がかつてつくった彫刻がポツンと立っている。鳥飼大橋南詰近くの小高い土手道に沿ったそこは、大阪の中之島公園と千里の万博記念公園を結ぶサイクルライン＝大阪吹田自転車道の休憩広場で、そこに高さ3メートルあまりのオブジェが目印となっている。

「風見石」の題そのまま風に揺れているように積み重なり、各々一面がスパッと切られた同形同大の造形石が、切口を下より東南西北に向けて螺旋状にねじり上がる。切口にはアルファベット26文字が陽刻されているが、それぞれの方角を示す頭文字（E・S・W・N）のみステンレス製で、陽ざしによって輝いて見える。周辺には同じ造形石3個が切口を上にもなっているのだ。

この制作を機に、私は幾度となく淀川を訪れることになり、現代の都市においていかに河川の空間と景観が大切かを改めて知ることになった。自然環境はいうまでもないけれど、何よりも対岸をはじめ“遠くが見える”こと。建物が迫っていないところから“空が大きく広がる”文字どおりの空間であること。そして川面を吹き抜ける“風が感じられる”場所であること、である。

淀川にオープン・エア・ミュージアムを

淀川の広大な川べりに点在する河川公園は地域や訪れる人たちの憩いの場所として利用されているけれど公園エリアをはじめとする親水空間を、リクリエーションだけでなく、アートフルな文化空間としても活用されてほしいと思わずにはいられない。

そこで思い出すのは、1989年に今は亡き美術家、吉田稔郎氏が淀川河川公園の太間地区で行った「ネットアート」のイベントである。ゴッホのひまわりの絵を畳260枚分もの巨大なネットにカラーシートを貼って拡大し、クレーンで吊り上げたつかの間の光景は、新聞のカラー図版でも紹介され話題となった。

大空をバックに水辺の自然を生かしたこうしたアートプロジェクトをその後聞くことはないが、川の水を含めて展開できる余地(?)はまだまだある。

大阪では新美術館の建設計画が地価高騰と、

それに続くバブル崩壊後の不況で中座しているが、美術館とは何もハコ（建物）に限定されることはなく、たとえば淀川の河川空間に展開する野外美術館であってもいいので

筆者と筆者の彫刻作品「風見石」一九八六



はないだろうか。

私は夢想する。淀川べり各地区の河川公園および、その間をつなぐ川沿いに点在する彫刻やオブジェの数々を。それら“点”を連続させることで、線状の水路である川を再認識させ、川の流れに沿って“歩きながら観る”フィールドワーク型のオープン・エア・ミュージアムを。それは河川景観と一体となった他に類のない“美術館”となるにちがいない。

今井祝雄